

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (4091600033), 法人名 (医療法人 布仁会), 事業所名 (グループホーム シオンくしはら), 所在地 (福岡県久留米市東櫛原町61-1), 自己評価作成日 (令和4年4月25日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりがゲストと生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関りをもつようになっている。清潔で快適な環境でゆっくりとコミュニケーションを取り、居心地よく温かい生活。日々の活性化を図っていく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: Field Name, Value. Field: 基本情報リンク先 (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&jigyosyoCd=4091600033-00&ServiceCd=320&Type=search)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (公益社団法人福岡県介護福祉士会), 所在地 (福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階), 訪問調査日 (令和4年5月20日).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (O/△/×), and Achievement Details (List of 4 items). Rows 58-64 describe various service outcomes like staff understanding, user safety, and staff support.

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、全職員が共有し、笑顔と真心を通して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会(桜祭り)の参加や子供会の子供みこしに来ていただいたり、久留米シニアアート展に出展したりなどして地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてグループホームの内容や目的等を説明し、意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行っている運営推進会議にて利用状況や現状の報告を行い、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいた際等に意見交換を行っている。 事故報告を提出する際には指示を仰ぎながら行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束を行わないケアの実践について話し合いを行っている。委員会での内容は全スタッフに周知徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや態度等、スタッフ同士で注意し虐待のない介護を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いの場を設け、十分な説明を行えるよう利用者側と施設側と数名参加の元で理解・納得を得られるよう行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の影響により現在は電話連絡でのコミュニケーションを中心に行っている。予約面会時の際に意見交換できるように声掛けなどの配慮をしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者及びスタッフでミーティングを行っている。 その他、日々の申し送りの場で意見を出せる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況が反映されるよう、皆勤賞及び永年勤続表彰他、キャリアアップ等、職場環境条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢・経験を問わず採用を行っている。 又、行事やレクリエーション、係や院内研修等、職員が率先して業務に携わっている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人での全体朝礼等にて折に触れ、理事長及び管理者から伝達がお行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修、ユニットのミーティングに参加し、各個人を把握した上で外部研修への参加を促し、業務中に起きた問題を解決・改善できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、勉強会や訪問等を通じて、外部からの目線も踏まえて日常のサービス向上にあたっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、本人または家族に意見や要望を聞き、それを踏まえた上でサービスの内容の提案を行い、納得していただけるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけでなく面会時に近況等を伝えている。 その都度連絡し、話ができるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極めどのような支援が必要なのか、情報以外にも必要としている支援がないか対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴を大切に、自分のできることは可能な限り本人にしてもらい、できない面に関してはサポートし、ともに寄り添った家族のような関係作りをしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り、家族とのコミュニケーションが多くなるよう働きかけている。 施設内での出来事や気づいた点を報告し、時には家族の協力を得てご本人をサポートできる関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの生活歴を傾聴し、美容室、外食、買い物等家族にお願いし、面会の際には居室でゆっくりとお茶や会話を楽しんでいただけるよう配慮している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が円滑になるようスタッフが見守り、関わり合い支え合えるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や診療所へ移動された後も面会し、利用者との関係を大切にしよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームでの生活に対する意向は日々のコミュニケーションや介護計画の更新時にアセスメントし、ニーズを汲み取るようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集時に尋ねたり、日々の行動を観察することで把握に努め、これまでの生活歴を考慮したケアに取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察して記録に残し、他スタッフとも必要時カンファレンスを実施し、情報の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を取り入れ介護計画を作成している。他職種とも連携を図り、モニタリングを行い、毎月のミーティングで話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、申し送りや職員間で声を掛け合い情報の把握・共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、外出が難しくホーム内でのニーズにできるだけ対応できるよう努めている。 写真やお便りで必要時お知らせをしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で難しくなっているが、地域の方々が鉢や季節の花をこまめに持ってきていただき、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と連携を図り、適切な受診が受けられるよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に対する気づきは、指示受け時や訪問時に伝えている。 特変事は診療所の看護師に情報を伝達して、対応方法の指示を仰ぎ、適切な受診が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連絡を取り、常日頃より状態に変化がある時は報告・相談に努めている。 入退院の説明に付き添い、支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が重度化した場合やターミナルケアの必要時は本人、家族の意向を確認し主治医からの説明を行い、多職種が連携を図り、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応・連絡はマニュアルを元に緊急時の対応を行い定期的に見直している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を角消防設備との協力体制で実施している。通報設備等を使用して様々な想定で避難訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し、尊厳を守ることを心掛けた声掛けや言葉遣いで対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺ったり、思いを汲み取れるようコミュニケーションを図っており、選択が困難な利用者には選択肢を絞り自己決定できる環境を心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、思い思いに過ごせるよう支援している。 希望が上がった場合はスケジュールを調整し、本人の思いが実現できるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時は化粧やおしゃれをして楽しんでいただいている。 起床時に髭剃りや服装、髪型を整えたり毎月訪問美容にて散髪をし、整容を支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを読み上げ、説明したり音楽を流したりして食事への楽しみを持っていただけるよう工夫している。利用者と職員と一緒に食器を拭き片付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、目標水分量や栄養を満たせるよう観察・支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に応じた口腔ケアを実施し、口腔内を衛生的に保てるよう努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを観察し、その方にあった時間での声かけや誘導を行っている。排泄の失敗があった際は自尊心を傷つけないよう配慮している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	3日以上排便がなかった際は連携医療機関に報告し対応している。 水分量が不足していないか観察し、体操やリハビリ等、適度に運動を心がけ、予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回を目安に個々の希望やタイミングに沿えるよう臨機応変に対応している。 入浴が楽しみなものとなるよう声掛けや季節湯(ゆず湯等)など工夫し支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の状態や状況を見て臥床時間や休息を設けたり、個々に配慮した支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は連携医療機関等より処方箋をもらいホームで保管し常時確認できる体制をとっている。服薬内容の変更や症状の変化等は申送り周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や役割を把握し、毎日の生活に活気や喜びを感じていただけるよう、今までの生活や趣味の継続を支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は地域交流行事への参加や近辺への散歩、希望に応じた買い物等を行っていた。 現在はホーム内で実施できることを提供し支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が難しい為、職員が必要時買い物を代行で行っている。 金銭管理が難しい利用者はホーム内で管理・保管し支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を希望時にかけたり、家族からかかって際に本人に代わり話す機会を設けている。 携帯を持っている利用者は好きな時に電話をかけられる環境にしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者と一緒に生けたり、四季に合わせて季節感が感じられる装飾を飾っている。 施設内の温度・湿度を快適な状態に保ち居心地のよい環境作りに努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではテレビやソファ、本などを設置し個々が思い思いに過ごせるよう配慮している。 気の合う利用者同士で会話ができる環境を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせてお気に入りの物や家族の写真等を飾るなどして安心できる居室作りに努めている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は安全に移動ができるよう手すりの設置やバリアフリー仕様となっている。 カレンダーを活用し自立した生活が送れるようにしている。		